

休眠預金等活用事業における追跡評価の制度設計に向けて

2023 年 8 日

JANPIA 評価チーム

1. 背景と目的

休眠預金活用事業の評価について、事前評価から事後評価までは「資金分配団体・実行団体に向けての評価指針（以下、「評価指針」）」にもとづき実施されておりますが、2019 年度通常枠事業が事業完了を迎えたのを機に、事業実施後一定期間を経過した事業を対象として実施する「追跡評価」について、本格実施に向けた具体的な実施方法等の検討を進めております。追跡評価は、事業実施後の一定期間経過後の事業の中長期的成果や波及効果等の把握を通じて、より広い見地から事業の価値を確認することで、次の未来につながるための教訓や戦略を見出せる重要な評価と考えております。つきましては、そのような重要な評価を開発するにあたり、19 年度通常枠事業資金分配団体の皆さまにもご協力いただき、評価の試行的実践をしながら制度設計を行う方針となりました。

2. 試行実施の進め方

追跡評価の実施ガイドラインの骨子案を作成後、対象事業（3 事業程度）について試行的な追跡評価を実施し、その経験から最終的に活用できる実施ガイドラインを作成します。

（1）実施期間

6 月から 12 月までとして、以下の 6 つのフェーズで進める予定です。

フェーズ 1: 2023 年 6 月～7 月	実施要領の確定
フェーズ 2: 2023 年 8 月～9 月	追跡評価事前準備
フェーズ 3: 2023 年 10 月～11 月	現地調査の実施
フェーズ 4: 2023 年 12 月	追跡評価報告書の作成
フェーズ 5: 2024 年 1 月	試行結果に基づく追跡評価方針の確定
フェーズ 6: 2021 年 2・3 月	本実施に向けて必要な書類の作成

（2）実施体制

- ①JANPIA 評価チーム（追跡評価担当 見上、高木、和田）
- ②外部コンサルタント（三好崇弘 有限会社エムエム・サービス）

（3）最終成果品

- ①追跡評価の試行的実施の報告書（3 案件）

※ご協力いただいた団体さまと共有させていただきますが、情報公開の対象とはなりません。

- ②追跡評価の実施ガイドライン案

（4）参考

参考①：追跡評価の実施方針と目次（案）

参考②：追跡評価ガイドラインの目次（案）

※上記は現時点での案となります。試行実施を経て適宜更新を行います。

【参考①】「追跡評価」実施方針と目次（案）

追跡評価の必要性

資金分配団体・実行団体に向けての評価指針(2020年7月版)では、事業の終了後の一定期間経過時に必要に応じて「追跡評価」をすることになっております。一定期間経過を経ないと判明しない中長期的成果（アウトカム）や波及効果等の把握や当時の評価の妥当性を検証することを目的としています。追跡評価をすることで、事業期間にとどまらない長い期間と広い視点から事業の価値を発見し、次の事業計画にとって重要なデータや教訓を得ることができる貴重な機会です。

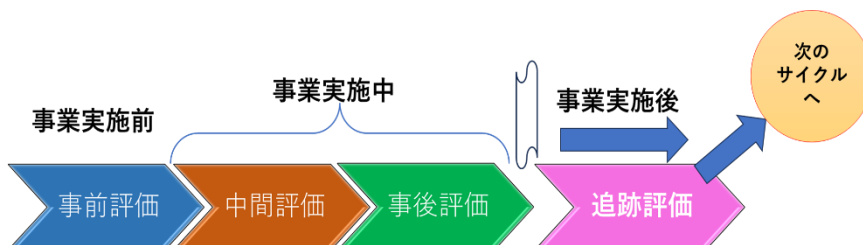
追跡評価の目的

「追跡評価を実施した団体が、長期的な視野から自らの事業の価値や自らの組織の役割をみつけると同時に乗り越えるべき課題を明確にすることで、未来にむけた方針や次のサイクル（事業計画づくり）につなげることができる」



追跡評価の位置づけ

- ・ 追跡評価は、事業実施後に実施されます。事業実施中に行った事後評価のやり直しや当時の評価の批評ではありません。
- ・ 事業実施中にはわからなかった価値や計画に示された中長期アウトカムや当時の出口戦略を現在の視点から検証します。
- ・ 加えて事後評価時ではとらえきれなかった事業が生み出した波及効果による価値や課題についても発掘し明確化します。
- ・ これらの結果は、次に進むべき方針やその実現のための事業計画につながる未来の懸け橋的な評価です。



追跡評価の3つの原則（大切にしていること）

- ・ 発掘・発見: 実施中には見えなかった事業の価値を、実施後の現在の視点から発掘・発見します。
- ・ 未来志向: 評価の視点は中間長期アウトカムに描かれた未来の視点です。その未来から考えて、どこまでできているのか、どうしたらできるのかを考えます。
- ・ フィードバック: 評価結果は、未来に向けた次の一步を踏み出すために活用します。次の休眠預金活用事業を含む計画サイクルにつなげるようにします。

追跡評価の進め方と役割

フェーズ	期間	評価実施者の役割	評価対象団体の役割（最短 4 日間）
1.計画・準備	5 日	<ul style="list-style-type: none"> - 評価方針・デザイン - 必要資料リスト - 資料の整理と把握 	<ul style="list-style-type: none"> - 評価方針・デザインへの合意 - リストに基づいた資料提出 - ミニ評価研修への参加（任意）
2.実施	5 日	<ul style="list-style-type: none"> - 調査ツールの用意 - 調査（インタビュー）の実施 - 実施進捗の報告 	<ul style="list-style-type: none"> - 調査（インタビュー）への協力 - 実施の調整（連絡先共有） - 実施進捗へのアドバイス
3.分析	5 日	<ul style="list-style-type: none"> - 調査結果の分析 - 結果報告の取りまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> - 調査結果の分析（ワークショップ） - 結果報告に対するコメント
4. フィードバック	5 日	<ul style="list-style-type: none"> - 未来への提言素案作成 - ワークショップの開催 - 報告書の最終化 	<ul style="list-style-type: none"> - 未来への提言最終化 - ワークショップへの参加 - 報告書へのコメント

上記はあくまで標準的なイメージです。評価者や団体によって変更されます。

追跡評価の標準的な調査デザイン

評価質問（メイン・テーマ）	評価質問（サブ・具体的な評価質問）	調査方法・ツールなど
中長期アウトカムの達成状況・見込み	中長期アウトカムは何か？（どのように設定されていたか？）	・既存の報告書収集
	中長期アウトカムは明確で関係者に理解されているか？	・簡易インタビュー/ディスカッション
	（指標がある場合）指標の達成状況は？	
	（指標がない場合）達成に対する関係者の評価は？	
達成状況への貢献度	事業終了後の出口戦略は何か？	・既存の報告書収集
	出口戦略をロジックで整理できるか？	・インタビュー
	出口戦略の通りに進んでいるか？	・ワークショップ
	貢献はあったか？他の要因はあったか？	（ロジックモデル）
インパクト（波及効果）の価値	事業目標以外の期待された波及効果は何か？	・既存の報告書収集
	期待された波及効果はあったか？	・インタビュー
	期待とは違う波及効果はあったか？	・フィールド調査
	波及効果が起きたのはなぜか？	（訪問観察）
未来にむけてのビジョン	中長期アウトカムはこのままでいいか？	・ディスカッション
	中長期アウトカムを達成するためにはどうするか？	・ワークショップ
	協力する関係組織や人は誰か？	（ロジックモデルの改善、未来シナリオを考える）
	次の事業案はどのようなものがあるか？	

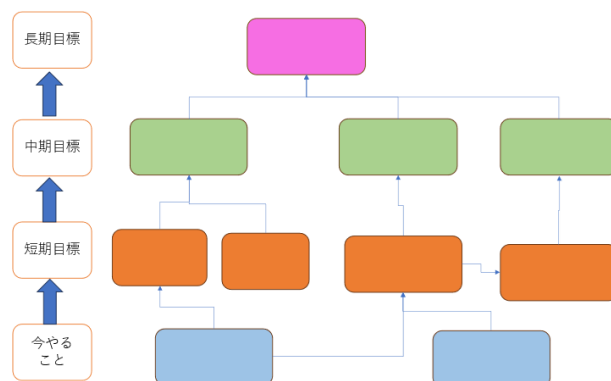
上記は標準的な評価の視点と調査「評価グリッド」の試案です。この評価グリッドは評価の専門家と評価対象者が共同でつくります。それを共有しながら評価調査を参加型で進めていきます。

追跡評価報告書の目次案 （試案です。評価者と対象者との協議が確定します）

- 1 追跡評価の概要
 - 1.1 実施の背景と目的
 - 1.2 実施体制
 - 1.3 実施活動記録
- 2 対象事業について
 - 2.1 対象事業の背景と目的
 - 2.2 事業の活動と成果（事後評価から）
 - 2.3 事後評価でとらえきれなかった価値
- 3 追跡評価の方法
 - 3.1 評価の目的と基本姿勢
 - 3.2 評価デザイン
 - 3.3 調査方法
- 4 追跡評価の結果
 - 4.1 調査結果（インタビュー調査、ワークショップ、訪問観察などの実績）
 - 4.2 調査結果の分析（結果の整理・集計・分析など）
 - 4.3 評価の結果（3つのテーマ）
 - 4.3.1 中長期アウトカム達成状況と貢献度
 - 4.3.2 波及効果（新しい価値）
 - 4.3.3 中長期アウトカムの達成への課題
 - 4.4 結論（本事業の長期的な価値とは?）
- 5 未来への指針
 - 5.1 中長期アウトカム達成に向けた提言
 - 5.2 組織としての学び・教訓
 - 5.3 未来へのアクションプランと協力者

別添

- ・評価グリッド
- ・未来に向けたロジックモデル（イメージ⇒）



【参考②】追跡評価ガイドライン目次（案）

1. 導入- 背景と追跡評価の位置づけ
 - 1-1 評価の必要性について
 - 1-2 追跡評価に求められるもの
 - 1-3 追跡評価と他の評価との関係性
2. 追跡評価の目的及び原則
 - 2-1 中長期的な視点で価値を見つける。
 - 2-2 取りこぼした・当時見えなかった価値をみつける。
 - 2-3 3つの原則（発掘・発見、未来志向、フィードバック）
+ 既存評価活用による効率的な調査
3. 計画フェーズ
 - 3-1 評価ニーズの確認
 - 3-2 既存評価活用による対象の理解（ロジックモデル）
 - 3-3 評価グリッドの作成
4. 実施フェーズ
 - 4-1 実施準備（関係性の構築、ツール準備など）
 - 4-2 評価グリッドに基づく実施
 - 4-3 実施モニタリング
5. 分析フェーズ
 - 5-1 量的データ分析
 - 5-2 質的データ分析
 - 5-3 統合化ワークショップ
6. フィードバックフェーズ
 - 6-1 結果の共有と広報
 - 6-2 出口戦略から未来戦略へ（ロジックモデルへの）
 - 6-3 戦略実施アクションプラン
7. 主なツール群
 - 7-1 量的データ調査・分析
 - 7-2 質的データ調査・分析
8. 事例
(実施した3つの事例と教訓_ 失敗も含めて)
9. 研修プラン
追跡評価の研修プラン（1日コース、スライド）

